

## 「自由遊び」テストの狙いとチェックポイント

幼稚園受験の考査では、集団の中での「自由遊び」の様子を見られるテストが一般的です。

1グループは2〜3人程度から20人程度まで、時間も10分〜1時間程度とさまざまですが、見られるポイントは、初めて会う子供やテストと一緒にの空間でもマナーや指示を守り、親と離れて行動できる「適応力」、遊びを見つけ、自分の力で取り組む「集中力」、明るく素直で生き生きとした、表情豊かな「子供らしさ」が主に挙げられます。

「年齢に見合った発達が見られれば特に準備をする必要はありません」と言われていますが、では「年齢に見合った発達」とはどのようなものなのか、その基準は幼稚園によっても幅があります。ちなみに文部科学省が告示している幼稚園指導要領にある「ねらい」を参考に紹介すると、特に「人間関係」においては、次ページの項目が無理なく指導できる子供をイメージできることが必要です。

この他に、宗教のある幼稚園ならば一定時間静かに話が聞ける姿勢が必須となりますし、上級校がいわゆる進学校であったり、小学校受験を目指す家庭が多く集まる幼稚園なら数量理解などの指示行動テストなど幼稚園が目指す教育方針に見合った確認方法が加わることになります。

「自由に遊ぶ」ことは、簡単なようで課題が明確でなく、チェックポイントがわかりづらい点が不安材料となりますが、だからこそ、普段の生活態度がしっかりしていれば自信を持って望むことができます。ただ、お母様とお子様の二人きりで過ごしていることが多いとお子さんの客観的な状態が見えにくいですし、子供同士の関係も学べません。

## 「年齢に見合った発達」とは

- 1、先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- 2、自分で考え、自分で行動する。
- 3、自分でできることは自分でする。
- 4、友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- 5、自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- 6、友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
- 7、友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- 8、よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- 9、友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。
- 10、友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- 11、共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
- 12、高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

(文部科学省告示第174号より抜粋)

ポイントとしては、周囲に迷惑をかたり、乱暴な態度はマイナスです。に、お友達や状況に配慮した行動、いやりのある言葉などはプラスになります。

お家での姿とお友達の中での姿が大きく変わってしまうこともあります。自由遊びの対策は、やはり良い子供団の中にお子さんと参加することになると思います（1歳〜3歳までのしい月齢別発達状況については、姉本『幼稚園受験 ここまでやれば大丈夫！ 基本編』の巻末チェック表を参照ください）。

## 自由遊び

例題1※自由に遊ぶ。途中から輪になるように指示がある

どんなテストか 名前を呼ばれ、5名が一室に入り自由に遊ぶ。途中から輪になるように指示があるので、みんなで輪になって一緒に遊ぶ。所要時間15分・1グループ5名・テスト4名

5名程度ですと、その中で「一緒に遊ぼう」と声を掛け合うのはだいたい2人くらいです。その子達がおままとや積み木、ボウリングなどの場所に行き一緒に遊びだすと、その後について行く子、または一人で折り紙を折る子などが見られます。

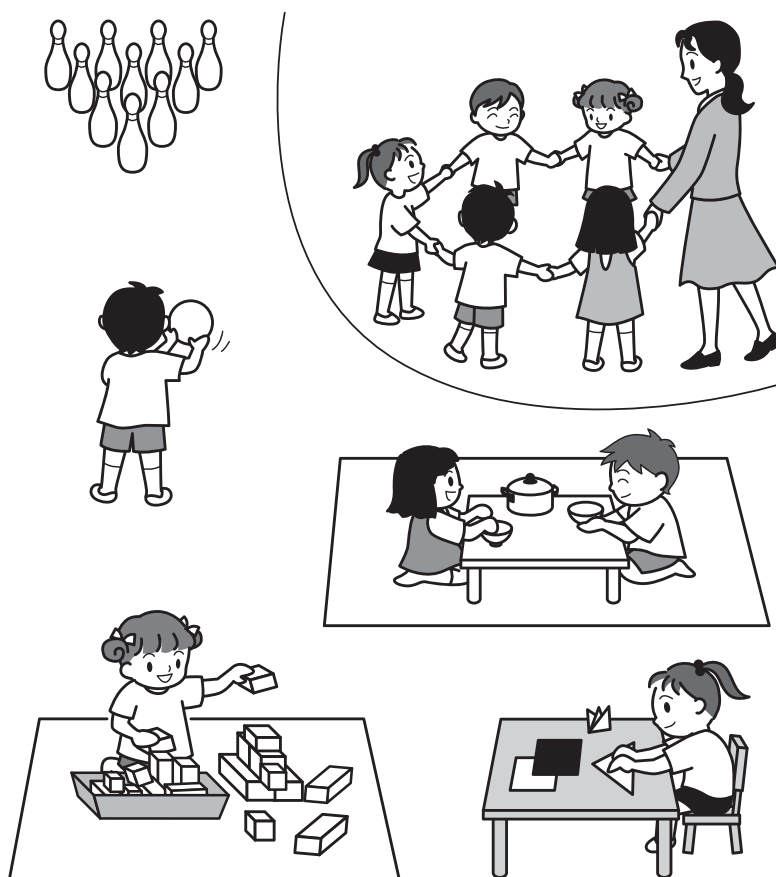
お友達に、自然に明るく声を掛けることができたなら、「同年齢の子供と遊ぶ機会が多い」「お友達と仲良く遊ぶことができる」、折り紙や積み木で「何か」を一生懸命作っていたなら、「集中して遊びに取り組む」「根気強い」、ボウリングや積み木で遊んだ後に並べなおす、きちんと片付ける姿が見られれば「躰が行き届いている」「遊びのルールをわかまえている」などの判断につながるがあります。ボウリングや積み木のほかに「パズル」「ドミノ」など、パーツの出し入れがある遊具は、片付けも遊びの一貫として覚えられるようにしておきましょう。

途中でテスターから「手をつなぎましょう」と声を掛けられたら、「あの子は嫌、この子がいい」といった選り好みをしないように、普段から大人も「あの人は……」と子供の前で人を選ばず、誰とでも同じ態度で接するようにできると良いですね。

初めてのお子さんのほとんどはお母さんとしか手をつなぎません。しかし1か月も経たないうちに、他の子供に誘われ手をつなぐようになります。そのときは私共もお母さんも大変感激します。その子が勇気を持って小さな社会に踏み出した第一歩なのです。「初めての人と手をつなぐ」という行為は、「手をつないだら歌や踊りが一緒にできて楽しかった」など、楽しい体験を積むことで期待をもってつなげるようになります。さらに慣れると他の子を誘う姿も見られます。

## 自由遊び●例題1

Q 自由に遊ぶ。途中から輪になるように指示がある



●ここがポイント！

- ・ボウリングや積み木で遊んだ後に並べなおす、きちんと片付ける姿が見られれば「関が行き届いている」「遊びのルールをわかまえている」などの判断につながる。
- ・テスターから「手をつなぎましょう」と声をかけられたら、「あの子は嫌、この子がいい」といった選り好みをしない。

## 自由遊び

例題2※ 「これは何ですか？」 「何を描いたの？」

どんなテストか 名前を呼ばれ、10名が1列に並んで別室に移動。自由に遊ぶ。途中で、テストターが「何を描いているの？」などと個々に質問をする。

遊具の数や種類が少ない場合は、たいてい遊びに入れない子供が見られます。その子が最後までそのままなのか、それとも自分で遊びを見つけ出していくのか、泣き出してしまうのか、誰かがその子を見て誘うのか、テストターはその様子を見ています。

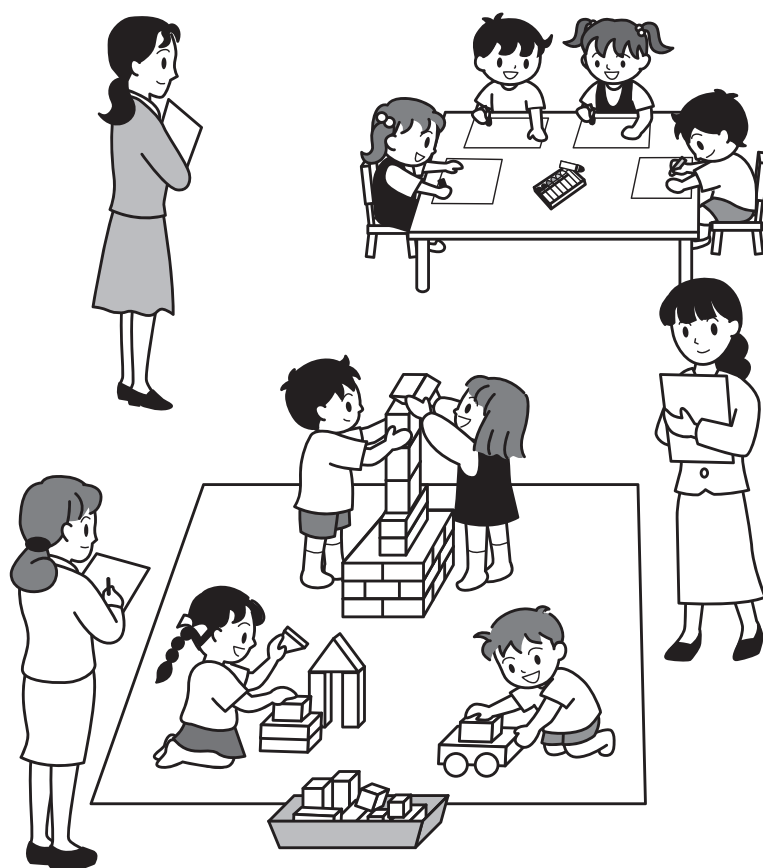
遊びに参加できたら、その子供の創作したものを見て「これは何ですか？」 「何を描いたの？」などの質問があります。

テストターが「うなの？」「うなのね？」とリラックスした話し言葉で話し掛けると、子供も「うん、そう！」「ロケットだよ！」などお友達に話すような言葉で返しがちです。幼稚園によっては「子供らしくて良い」とみる場合もありますし、隣の子供が「はい、そうです」「これはお城です」と答えれば、そのほうがしっかりしたイメージで判断されることもあります。テストターの話し方が目安になる場合もあるので、子供に対しても丁寧な言葉で話している場合は、やはり丁寧な言葉が使えると良いでしょう。

さらに「ここが窓になっていて、開けるとお姫様のお部屋が見えるの」など工夫や説明があると、その子の持つ「想像力」や「創造力」を伝えられることでしょう。

## 自由遊び●例題2

Q 「これは何ですか？」 「何を描いたの？」



## ●ここがポイント！

- ・ テスターの質問に対して、「うん、そう！」「ロケットだよ！」などお友達に話すような言葉遣いは避ける。
- ・ 工夫や説明ができると、「想像力」や「創造力」があると見なされる。

## 自由遊び

例題3※一緒に歌を歌った後、絵本の読み聞かせがあり、質問に答える

どんなテストか 「きらきら星」などを一緒に歌う。次に絵本の読み聞かせの後、一人ずつ、本の内容についての質問を受ける。所要時20分・1グループ10名・テスト3名

椅子や床に座る指示がある場合は、しっかり座っていることがポイントになります。例えば、夢中になってうっかり立ち上がってしまったとしても、すぐに気付いて座ることができればそれほど問題ありません。指示がわからなくてただ歩き回っているのか、違うものに興味を持ってしまい指示が聞けないのか、立ち上がった後で自分の席に戻れるか（覚えているか）、椅子の片付けなどもできるか、などがチェックされています。

テストのほうを見て楽しく参加ができていれば、良い表情がテストに伝わっていると思います。普段から、好きな絵本の読み聞かせ、ペープサート、紙芝居や仕掛け絵本など視線を集中させる機会や、鼻歌ばかりではなく、しっかり目を合わせて一緒に歌う、踊りながら歌う、できるだけきれいな声で歌おうとする、など他の子供とリズムを合わせる機会を持ちましょう。

### ●質問例

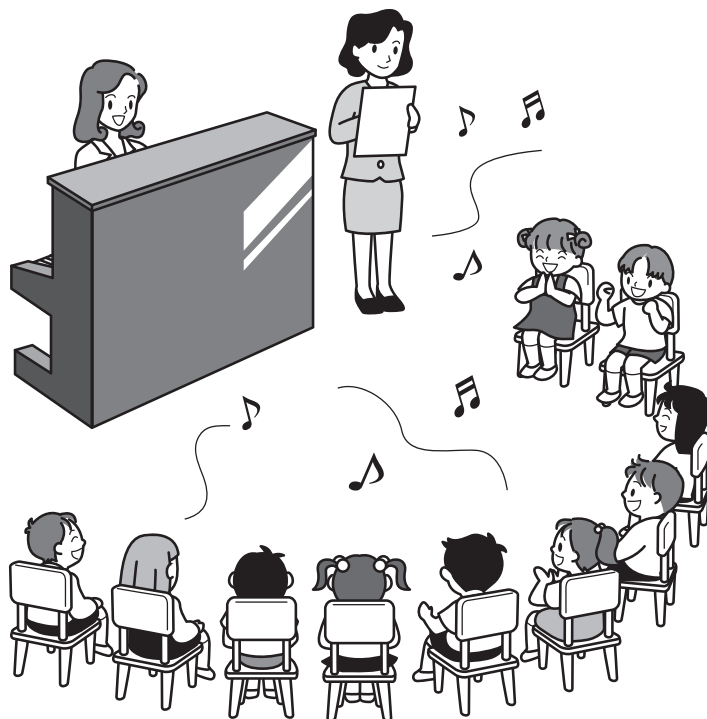
「お話の中に出てきた車は何色でしたか（3色の中から選ぶ）」

「お話に出てきた動物は何でしたか」

「(信号の出てくる内容で) 青・黄・赤信号のときはどうすれば良いですか」

## 自由遊び●例題3

Q一緒に歌を歌った後、絵本の読み聞かせがあり、質問に答える



●ここがポイント！

- ・知らない歌でもリズムに合わせて首を振るなど、参加している様子がうかがえる。
- ・絵本の読み聞かせのときは、絵本に視線を集中させる。
- ・楽しそうに歌う、手拍子や踊りながら歌える、ふざけたり怒鳴らずに歌う。
- ・途中で立ち歩いたり、椅子を動かさない。



## 自由遊び

例題4※本を読んでもらった後、テストターの指示に従う

どんなテストか 絨毯に座って本を読んでもらう。次に、テストターの振り付けを真似て、みんなの手遊びを行う。場面の切り替えや指示の理解など、話を聞く「静」と子供らしく動く「動」、両方の行動の様子を観察。所要時間20分・1グループ8名・テストター3名

絨毯や床に座る場合は「三角座り」「体操座り」といわれる座り方や、膝から下を両側（片側）横に流す「お母さん（お姉さん）座り」、正座などが一般的です。片膝を立てる、背中を丸めて足を広げる、寝転がる、などをせず、落ち着いてしっかり座っていることは、普段から体験がないとなかなかできません。家で寝転がって本を読む、玩具で遊ぶなどの習慣があると、うっかり同じ姿をとることもあるかもしれません。現代の生活では正座の機会は少ないですが、3歳児でも日々の生活で慣れている子供は正座のほうに落ち着くという子供もいます。

女の子の場合、スカートの丈は座ったときに膝がしっかり隠れる長さが良いでしょう。足を開いて座ったとしてもスカートに覆われているのでそれほど目立たないことが多いようです。紺のアンダーパンツ（ブルマ）を着用し、普段から座り方には気をつけておきましょう。

立つことや動くことなどを指示されたときは、なるべく即座に反応し機敏に動くと、理解度も高い印象になります。遊びの中で、拍手や楽器の音に合わせて「立つ」「座る」「ジャンプをする」など、素早く動くことに慣れておくと良いでしょう。

## 自由遊び●例題4

Q本を読んでもらった後、テストターの指示に従う



●ここがポイント！

- ・絨毯や床に座る場合は寝転がったりせず「三角座り」「体操座り」といわれる座り方や正座ができたほうがよい。
- ・集中して静かに話を聞く。
- ・テストターの指示に対しては、即座に反応し機敏に動くことができる。